

名拘発第1575号
令和4年8月17日

緊急報告第6号様式

あ て 先	矯 正 局 長 殿 名古屋矯正管区長	発 信 人	名古屋拘置所長
-------------	--------------------------	-------------	---------

自殺事故速報

1 事故発生日時及び概要

- (1) 令和4年8月12日（金）午前9時46分頃、[] 担当職員看守 []
(以下「[] 看守」という。)が、[] (以下「同室」という。)に収容中の懲役受刑者 [] (以下「事故者」という。)に、お茶を給与するため、同室内を視察したところ、事故者が、便器付近において、窓側を向いて横たわり、両端を結束して輪状にしたタオルを便器の配管に掛け、同輪の中に自己の頸部を入れてい首している状況を認め、[] 看守が事故者に対して声掛けを行うも反応がなかったことから、医療ベル通報した。
- (2) 同時47分頃、首席矯正処遇官（企画担当）[] (以下「[] 企画首席」という。)が現場に駆け付け、[] 看守に同室扉を開扉させ、[] 企画首席が事故者の意識確認を行うも事故者に反応は認められず、同時48分頃、同じく同室前に駆け付けた副看守長[] (以下「[] 副看守長」という。)が同室に入室し、事故者の上半身を[] 看守が、腹部付近を[] 副看守長がそれぞれ両手で抱えるようにして事故者を持ち上げたところ、事故者の首から同タオルが外れたため、その場に事故者を仰向けの状態で降ろし、[] 企画首席が心臓マッサージを開始するとともに、駆け付けた職員に対して119番通報及びAEDを持ってくるよう指示した。
- (3) 同時刻頃、医務課長医師[] (以下「[] 医務課長」という。)、医務課准看護師看守部長[] (以下「[] 看守部長」という。)及び医務課看護師[] (以下「[] 看護師」という。)が同室に到着し、[] 医務課長が[] 企画首席と心臓マッサージを交代し、同時49分、[] 企画首席の指示を受け、主任矯正処遇官[] がAEDを使用したところ、電気ショックの必要はない旨のアナウンスが流れたため、引き続き、[] 医務課長、[] 看守部長及び[] 看護師が交代で心臓マッサージを継続した。
- (4) 同10時零分頃、救急隊員が同室に到着し、事故者の状態確認を行った後、[] 医務課長が救急隊員に心肺蘇生を引き継ぎ、救急隊員が事故者をストレッチャーで救急車へ搬送し、同時18分頃、救急車が[] 病院に到着した。
- なお、同病院医師から、[] の所見が示された。
- (5) 同月14日（日）午前9時10分、事故者が心肺停止となった。
- (6) 同時54分、[] 同病院医師により、事故者の死亡が確認された。

なお、死因は、低酸素脳症であった。

2 事故者名等

- (1) 身 分 懲役受刑者
(2) 氏 名
(3) 生 年 月 日
(4) 事 件 名
(5) 刑 名 、 刑 期
(6) 入 所 日
(7) 刑 の 終 了 日
(8) 入 所 度 数
(9) 制限区分及び優遇区分
(10) 所内における行状の良否
(11) 住 所

(12) 国 籍

3 推定事故原因

載された便箋も発見されており、
やつ起したものと推認される。

などと記

本件事故をじ

4 事案に対し採った処置

- (1) 同月 12 日 (金) 午前 9 時 46 分、居室棟勤務職員が医療ベル通報した。
(2) 同時 47 分、駆け付けた職員及び居室棟勤務職員が事故者を持ち上げたところ、
事故者の首から同タオルが外れたため、その場に事故者を仰向けの状態でおろし、
臨場した他の職員が心臓マッサージを開始するとともに、同時 49 分、A E D を使
用し、同時 53 分、119番通報した。
(3) 同日午前 10 時 5 分、事故者を「窒息」により [] とし、同時 38 分、名古
屋地方検察庁にその旨を通報した。
(4) []

(5) 同日午前 10 時 18 分頃、119番通報により到着した救急隊が事故者を外部の
病院に搬送した。
(6) 同時 37 分から同日午後零時 40 分まで、名古屋東警察署警察官により、事故者
の居室である [] の現場確認等が行われた。
(7) []

(8) []

(9) []

(10)

(11)

(12)

(13) 同日午後零時8分から [REDACTED]において、愛知県警察本部捜査一課検視官による司法検視が行われた。また、併せて当職が行政検視を行った。

なお、司法検視後、名古屋地方検察庁検事により、事件性はなく司法解剖は実施しない旨の判断が示された。

5 その他

(1) 同月12日（金）午前9時32分頃、[REDACTED]看守が入浴終了後の受刑者を還室させる際に、同室内を視察したところ、事故者が便器に座っているのを確認している。

(2)

(3) 事故日における開室時点の収容人員は、447名である。

(4) 現在のところ、6社（朝日新聞、読売新聞、NHK、中日新聞、共同通信及び名古屋テレビ）の報道機関から取材があり、新聞記事が2件（朝日新聞及び中日新聞）、インターネット記事が2件（中日新聞及び名古屋テレビ）掲載された。